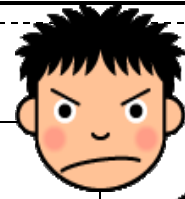


☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

10月21日（月）

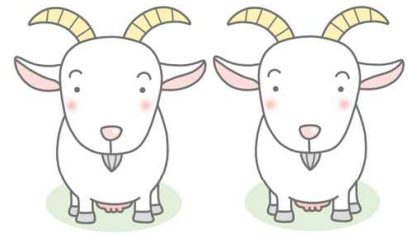
『けんかをするときもあるけれど・・・』

講話 1年担任 飯尾知世



『けんか』。みなさんも、けんかをすることがありますよね。私も何度もけんかをしたことがあります。家族、兄弟、友だちといろいろけんかをするがありました。学校でも、けんかはよく起こります。学校で一番けんかの多いところは、どこか知っていますか？実は、下駄箱の前だそうです。その次が運動場やトイレ、廊下と続くそうです。けんかをすると、どうしても相手のせいになんたくなりませんか？「〇〇が悪い」「先にやってきたのは〇〇だ」と、相手のせいにして、自分は負けたくないという気持ちになると思います。そんなみなさんに、「二匹のヤギ」という話をします。

二匹のヤギが川にかかった狭い橋の上で、出会ってしまったのです。橋は狭すぎて、戻ることも、お互いに横をすり抜けることもできません。それぞれ自分が通ろうと、無理に進んでいくとぶつかって両方とも川



に落ち、溺れてしまいます。たった一つの方法は、一匹が橋の上に伏せて相手に自分の上を踏んで渡ってもらうことなのです。こうすれば、二匹とも無事に橋を渡ることができます。

私たち人間は、この二匹のヤギたちと同じような立場に立つことがあります。小さなことでけんかになることもまさにこのことを言っているのと同じです。そんなとき、みなさんはどうするでしょうか？ぶつかり合って、相手がどけばいいとお互いに思い、相手と川に落ちて溺れてしまうことを選ぶ人はいますか？

では、どうして人のせいにしてしまうのでしょうか。それは、自分自身にこだわりすぎて自分が勝つこと、自分が得することしか考えていないことに原因があるのです。それに対し、自分が踏み台になって相手に譲ることは、なかなかつらいものです。「相手が悪いのに・・・」と思いながらも我慢することは、自分が「負けた」とか「損した」という悔しさも残ります。しかし、けんかをしてしまっても、「負けた」とか「損をした」ということにこだわらず、「自分も悪いところがあったな。」と、悪いところを受け止められた人が立派な人になることができます。けんかをすることは決して悪いことばかりではありません。

けんかをしたあとに、自分の悪かったところを反省し、相手のせいばかりにしないで仲直りすることができればいいと思います。

もし今後、けんかをしてしまったときには、今日の話の思い出し、「勝ち負け」「損得」にこだわらず、仲直りしてくれたらと思います。



読書週間

読書週間は、昭和23年に「文化の日（11月3日）を中心とした2週間」と決められました。そこで、毎年10月27日から11月9日となっています。今年読書週間の標語は、『本と旅する 本を旅する』です。『旅』は、普段とは違ったことにふれ合うことができます。本を読むことでいつもと違った世界、体験できないできごとに出会うことができます。



【読書週間ポスター】



学校では、読書週間に向けて23日に図書委員会が集会を行ってくれました。低・中・高学年それぞれのおすすめの本の紹介、図書室を使うときの約束の説明をしてもらいました。

ご家庭でも読書週間を生かして、家族みんなですべての読書に取り組んでみてはどうでしょう。

